

第57回 日本生殖医学会

2012.11.08-09. 長崎

非 ART 妊娠、新鮮胚移植妊娠、凍結融解胚移植妊娠で生下時体重に差はあるか

柴田 美智子 伊藤 啓二郎 佃 笑美 佐藤 学 赤松 芳恵 橋本 周
前沢 忠志 姫野 隆雄 大西 洋子 井上 朋子 中岡 義晴 森本 義晴

【目的】高度生殖補助医療（ART）による不妊治療後の妊娠分娩数が増加するにつれ、ART そのものの新生児への影響を調査する必要性が指摘されている。今回我々は非 ART 妊娠、新鮮胚移植後妊娠、凍結融解胚移植後妊娠で出生時体重に差がみられるか、在胎週数別に検討したので報告する。

【方法】2004-2010年に当院で単胎妊娠後、分娩した1816例（非 ART 群:596例、新鮮胚移植群:535例、凍結胚移植群:685例）を対象とした。各群間での早産発生率と在胎週数別の出生時体重を比較した。統計解析は分散分析後、Fisher の PLSD 検定により実施した。

【結果】早産発生率は非 ART 群、新鮮胚移植群、凍結胚移植群で 5.7%、4.6%、6.8%で、3 群間で差は認められなかった。在胎週数別の平均体重は非 ART 群、新鮮胚移植群、凍結胚移植群の 3 群でそれぞれ 36 週(2533.4g、2555.6g、2633.8g)、37 週(2818.0g、2837.2g、2832.1g)、38 週(2877.8g、2858.1g、3007.1g)、39 週(3021.0g、3016.1g、3127.9g)、40 週(3159.7g、3145.4g、3258.2g)、41 週(3216.7g、3294.8g、3265.7g)、42 週(3459.2g、3085.7g、3309.1g)であり、38、39、40 週で凍結胚移植群は非 ART 群と新鮮胚移植群に比較して有意に重かった($p<0.05$)。

【考察】非 ART 群と新鮮胚移植群で出生児の体重に差はみとめられなかった。その一方で、凍結胚移植群の出生児体重が新鮮胚移植群より重かった。これは凍結・融解の操作が影響しているかもしれない。2011 年度の厚労省補助研究調査においても同様の結果が報告されている。今後、凍結・融解操作の影響を詳細に検討していきたいと考えている。